

＜かんきつ＞ へた落ち防止

1. マデックEWを使用の際は果梗部を中心に樹全体にむらなく散布する。他の薬剤との混用は避ける。へた落ち防止に使用する場合、長期間貯蔵したい場合にのみ使用する。極端に樹勢の強い樹や樹勢の弱い樹または幼木では使用しない。後期落果防止を目的として使用する場合は冬期落葉防止、へた落ち防止の目的では使用しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
マデックEW	H:4	収穫開始予定日の20～10日前	1回	立木全面散布

＜かんきつ＞ 後期落果防止

1. マデックEWの使用上の注意事項は、へた落ち防止の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
マデックEW	H:4	着色期～収穫20日前まで	2回以内	立木全面散布

＜かんきつ＞ 冬期落葉防止

1. マデックEWの使用上の注意事項は、へた落ち防止の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
マデックEW	H:4	11月～1月(但し、収穫10日前まで)	1回	立木全面散布

＜かんきつ(温州みかんを除く)＞ 夏秋梢伸長抑制

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ターム水溶剤		新梢萌芽時及び再萌芽時(但し、収穫前日まで)	2回～3回	立木全面散布又は枝別散布

＜かんきつ(温州みかんを除く)＞ 果実肥大促進

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ターム水溶剤		果実肥大期(但し、収穫前日まで)	2回	立木全面散布又は枝別散布

＜かんきつ(温州みかんを除く)＞ 後期落果防止

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ターム水溶剤		果実着色期～収穫予定14日前	1回～2回	立木全面散布又は枝別散布

＜かんきつ(温州みかんを除く)＞ 摘果

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ターム水溶剤		生理落果発生期(満開10～50日後)	1回	立木全面散布又は枝別散布

＜晩柑類(はっさく、ぶんたんを除く)＞ 着色促進

1. クレフノンの散布回数は、降雨などによる付着量の変化に応じて加減する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
クレフノン			-	収穫1ヶ月前から収穫10日前までの間に2～3回散布

＜かんきつ(温州みかん、きんかんを除く)＞ 夏秋梢伸長抑制

1. フィガロン乳剤は、他剤との混用及び同日散布は避ける。また、本剤散布の約10日前から1・2日後までアルカリ性薬剤の散布を避ける。散布直後の降雨でも再散布しない。7～8年生以上の樹勢の安定した成木に使用する。なお、例年使用で樹勢低下する場合がある。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
フィガロン乳剤		新梢萌芽期(但し、収穫60日前まで)	1回～2回	立木全面散布

＜かんきつ(温州みかん、きんかんを除く)＞ 熟期促進

1. フィガロン乳剤の使用上の注意事項は、夏秋梢伸長抑制の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
フィガロン乳剤		1回目:満開50～90日後、2回目:満開70～110日後、(但し、収穫21日前まで)	2回	立木全面散布

＜かんきつ(不知火、ぼんかん、かぼす、はるみ、ワシントンネーブル、日向夏、すだち、平兵衛酢、長門ユズキチ(無核)、温州みかん、きんかん、愛媛果試第28号、愛媛果試第48号、清見、カヲを除く)＞ 花芽抑制による樹勢の維持

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ジベレリン液剤		収穫直後～収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布

＜かんきつ(不知火、ぼんかん、かぼす、はるみ、ワシントンネーブル、日向夏、すだち、平兵衛酢、長門ユズキチ(無核)、温州みかん、きんかん、愛媛果試第28号、愛媛果試第48号、清見、カヲを除く)＞ 落果防止

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ジベレリン液剤		開花始め～満開10日後	1回	散布

＜みかん＞ 浮皮の軽減及び果皮水分の減少促進(予措効果)

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
クレフノン			-	収穫1ヶ月前から収穫直前までの間に1回散布

＜温州みかん＞ 夏秋梢伸長抑制

1. フィガロン乳剤は、他剤との混用及び同日散布は避ける。また、本剤散布の約10日前から1・2日後までアルカリ性薬剤の散布を避ける。散布直後の降雨でも再散布しない。7～8年生以上の樹勢の安定した成木に使用する。なお、例年使用で樹勢低下する場合がある。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ターム水溶剤		新梢萌芽前(但し、収穫前日まで)	2回～3回	立木全面散布又は枝別散布
フィガロン乳剤		新梢萌芽期(但し、収穫14日前まで)	1回～2回	立木全面散布

＜温州みかん＞ 花芽抑制による樹勢の維持

1. 必ずマシン油乳剤60～80倍液に加用する。
 2. マシン油乳剤はジベレリンに加用の登録のある剤を使用し、マシン油乳剤の注意書きを確認のうえ、使用すること。
 3. 薬液が葉先からしたたる程度に散布する。
 4. 低温が続いた年には花芽が減少するので注意して使用する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ジベレリン液剤		11月～1月(但し、収穫後)	1回	立木全面散布又は枝別散布(マシン油乳剤60～80倍液又は展着剤に加用)

＜温州みかん＞ 間引摘果

1. フィガロン乳剤は、最高気温25℃以上の日に散布する。ただし、散布時や散布後2～3日間高温(30℃)が続くと摘果過多となる可能性がある。果径25mm以上では摘果効果が小さくなる。着果量が多い場合早めに散布する。その他注意事項は夏秋梢伸長抑制の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
フィガロン乳剤		満開20～50日後で生理落果のある時	1回	立木全面散布

＜温州みかん＞ 結果母枝の充実、着花促進

1. ターム水溶剤の使用上の注意事項は、間引き摘果の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ターム水溶剤		夏秋梢萌芽時及び再萌芽時(但し、収穫前日まで)	2回	立木全面散布又は枝別散布

＜温州みかん＞ 熟期促進(間引摘果をかねて使用する場合)

1. フィガロン乳剤は、以下の点に注意して使用する。ア)適正な着果量の樹に散布する。イ)夏芽の発生を抑制するため、夏芽を発生させたい樹には使用しない。ウ)その他の注意事項は、夏秋梢伸長抑制の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
フィガロン乳剤		1回目:間引摘果用として使用(満開20～50日後)、2回目:満開70～80日後(但し、収穫14日前まで)	2回	立木全面散布

＜温州みかん＞ 熟期促進(熟期促進だけに使用する場合)

1. フィガロン乳剤の熟期促進のみを目的とした1回目散布は、少ない着果量や果実の生育遅れの場合には低濃度(3000倍)又は使用時期範囲内の後期に散布する。なお夏芽を発生させたい樹には使用しない。使用上のその他注意事項は夏秋梢伸長抑制の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
フィガロン乳剤		1回目:満開50～90日後、2回目:満開70～110日後、(但し、収穫14日前まで)	2回	立木全面散布

＜温州みかん＞ 新梢発生促進

1. ビーエー液剤は、弱樹勢樹では使用しない。加温ハウス栽培園で散布から加温までの期間が短いと、結果母枝の充実までに至らず着花が減少することがあるため、収穫、剪定後できるだけ早い時期に使用する。銅剤の近接散布で効果を低下させることがある。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ビーエー液剤		萌芽直前～萌芽期(加温ハウス栽培園では収穫後)	1回	緑枝部へ散布

＜温州みかん＞ 全摘果

1. フィガロン乳剤は、効果を高めるために気温が高くなることが予想される日に散布することが望ましい。ただし、異常な高低温、多雨、乾燥等が続くときは使用をさける。混合使用は旧葉の落葉を助長することがある。その他の注意事項は夏秋梢伸長抑制の項を参照。
 2. エスレル10の散布は、激しい落葉を起こすことがある。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
フィガロン乳剤		生理落果最盛期(満開10～20日後)	1回	摘果したい部分に散布
フィガロン乳剤		生理落果最盛期(満開10～20日後)	1回	エスレル10の2000～8000倍希釈液と混合して摘果したい部分に散布
エスレル10		生理落果最盛期(満開10～20日後)	1回	フィガロン乳剤の1000～2000倍液と混合して、摘果したい部分に散布

<温州みかん> 着花促進

1. 着花促進を目的としたビーエー液剤の適用場所は、早期加温ハウス栽培園である。銅剤の近接散布は、効果を低下させることがあるため避ける。また、樹勢の弱い樹は、散布により効果が現われてもその後、新梢、花が脱落することがあるので使用しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ビーエー液剤		加温直後	1回	散布

<温州みかん> 摘果

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ターム水溶剤		二次生理落果発生期(満開20～40日後)	1回	立木全面散布又は枝別散布
ターム水溶剤		一次生理落果発生期(満開10～20日後)	1回	立木全面散布又は枝別散布

<温州みかん> 浮皮軽減

1. セルバインは、リン酸を含む葉面散布肥料との混用では効果が落ちる。
 2. フィガロン乳剤の使用上の注意事項は、夏秋梢伸長抑制の項を参照。
 3. ジベレリン液剤・粉末処理により、着色が遅れることから貯蔵用または樹上完熟の温州みかんで使用する。散布により果実に緑斑が残ることがある。結実量が多い木では、十分摘果してから散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
セルバイン			-	生理落果終了から着色期までに20～30日間隔で2～3回散布
ジベレリン液剤		収穫予定日の3ヶ月前(但し、収穫45日前まで)	1回	果実散布(プロト'ロ'ジヤモン1000～2000倍液に加用)
ジャスモメート液剤		収穫予定日の3ヶ月前(但し、収穫45日前まで)	1回	果実散布(ジベレリン1～5ppm液に加用)
フィガロン乳剤		1回目: 蚩尻期、2回目: 蚩尻期の2週間後(但し、収穫7日前まで)	2回	立木全面散布

<きんかん> 花芽抑制による樹勢の維持

1. ジベレリン液剤・錠剤・粉末は、12月下旬から1月下旬に立木全体または枝別処理とし、葉液が葉先からしたたる程度に散布する。低温が続いた年には花芽が減少するので注意して使用する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ジベレリン液剤		収穫直後～収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布
ジベレリン錠剤		収穫直後～収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布
ジベレリン粉末		収穫直後～収穫約1ヶ月後	1回	立木全面散布又は枝別散布

<きんかん> 落果防止

1. ジベレリン液剤・錠剤・粉末の処理時期が早いほど、また処理濃度が高いほど効果は高いが、果面の粗滑や果皮の厚さ等果実品質への影響が懸念される場合があるので、使用時期、濃度は守ること。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ジベレリン液剤		開花始め～満開10日後	1回	散布
ジベレリン錠剤		開花始め～満開10日後	1回	散布
ジベレリン粉末		開花始め～満開10日後	1回	散布